

青森県営浅虫水族館

事業名 「未来へつなぐ大切な命」

実施期間：2023年7月22日（土）～2024年3月31日（日）



会場の風景



会場の風景



解説風景



解説風景

【事業の内容・目的】

- 減少する漁獲量を補うために行われている栽培漁業や養殖漁業で生産される種苗、水族館で生まれた稚魚やクラゲ、海洋酸性化の影響を受けるクリオネなどの小さな生物を集約して展示し、海の環境変化が生き物たちへ悪影響を与えていることを知る機会とし、そうした小さな生物でも生きていける海を次世代へ残そうとする機運の創出を目指しました。
- 人類の活発な産業活動により、大気中に放出された二酸化炭素などの温室効果ガスが地球温暖化を引き起こしています。それによる海水温の上昇や海流の変化等によって地域で漁獲される魚種が変化し、水産資源の管理不足も相まって漁獲量が減少しています。また、海に溶け込む二酸化炭素は、海洋の酸性化を引き起こし、クリオネなどの生物に悪影響を与えています。そうした現状を知る機会を提供し、次世代に豊かな海を引き継ぐためにはどうすれば良いのかを考える場とすることを目的としました。

活動の様子

1. 栽培漁業や養殖漁業で生産された種苗種の展示解説活動

【開催日時】2023年7月22日（土）～2024年3月31日（日）

【開催場所】浅虫水族館 おらほのめんこちゃんコーナー

【参加者数】4,500人

【活動内容・目的】

- 地球温暖化による海水温の上昇や海流の変化等によって地域で漁獲される魚種が変化し、漁獲量が減少しています。それを補うために行われている栽培漁業や養殖漁業で生産されるキツネメバルやミネフジツボ、青い森紅サーモン、マコガレイなどの種苗を展示することにより、「つくり育てる漁業」を知る場とし、水槽前での解説活動で、より理解度を高めていただく場とすることを目的としました。



会場の風景



展示生物 キツネメバルの稚魚



解説風景



解説風景

来館者の目につきやすい特設会場で生命の尊さを感じるように小さな生物を小型水槽で展示。解説活動で海洋の環境変化によって地域で漁獲される魚種が変化し、減少する漁獲量を補うために様々な種苗を生産している栽培漁業や養殖漁業による「つくり育てる漁業」について理解していただいた。また、ここで育って成長した個体は通常の展示水槽に移されることを紹介し、SDGsに沿った海への負荷を少なくする展示について理解を深めていただいた。

【参加者の声】

- 海にはいろんな魚がすんでいるからキレイにしたいとなりました。
- 海は大切で自分たちに必要だから海を守る取り組みをしたいと思いました。
- もっと海のことを知りたくなりました。
- 魚を食べるために海を大切にしようと思いました。
- 卵から育ててから放流していることを初めて知りました。
- 普段見られない魚の赤ちゃんを見ることができて楽しかった。
- 私たちの知らないところで飼育員さんたちが魚を増やそうとしていることを学ぶことができた。
- 資源保護について様々な活動がされていることが分かりました。
- 地元の海について知れたことが有意義だった。子供たちの教育にも良かった。
- 様々な稚魚を見ることができて良かった。資源保護は大切だと思った。
- 環境が守られてこそ、その生態が見られるので、海の環境を守らなければならないと改めて認識した。
- 人は人間以外の生物に支えられていることを想像する機会となりました。
- 自然を大切に守っていくことが海の生命を守ることが分かりました。
- フジツボも食べることができて、おいしいということが知らなかったので挑戦してみたい。
- 青い森紅サーモンの成魚と幼魚を見比べることができて良かった。
- いつも釣って食べている魚の稚魚を見ることができて良かった。

2. クリオネの展示解説活動

【開催日時】2023年7月22日（土）～2024年3月31日（日）

【開催場所】浅虫水族館 おらほのめんこちゃんコーナー

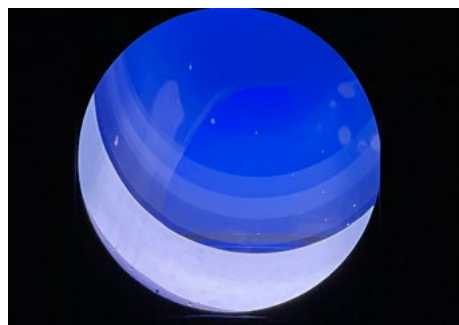
【参加者数】4,500人

【活動内容・目的】

- 小さな生物ですが、認知度の高いクリオネの展示を通して海にすむ生き物は、地球温暖化と共に海洋酸性化による悪影響で生息が危ぶまれることを知る機会とし、食物連鎖の底辺を支える小さな生物が危機的状況に陥るほど、海洋の環境が悪化している状況を知る場とすることを目的としました。



会場の風景



展示生物 クリオネ



解説風景



解説風景

来館者の目につきやすい特設会場で生命の尊さを感じるように小さな生物を小型水槽で展示。海に溶け込む二酸化炭素が海洋の酸性化を引き起こし、クリオネの唯一の餌生物である貝類の生息が危ぶまれる状況であることをパネルで分かりやすく解説し、食物連鎖の底辺を支える生物が海洋の環境悪化によって、その生息が危ぶまれる状況にあることを理解していただき、この小さな生物を次世代へ引き継ぐにはどうすればよいかを考える機会を創出できた。

【参加者の声】

- 海はとても大切だということが分かった
- 地球温暖化で、魚たちが死んで、僕たちの食料がなくなることを学んだ。
- 海にはゴミが多いから自分で分別したりしてゴミを減らしていきたいです。
- 海が人間のせいで汚くなり、クジラなどが死んでいるから、海を守りたいと思いました。
- クリオネが絶滅するかもしれないということに驚きました。
- クリオネが絶滅の危機にあること。また、それにより多くの魚がいなくなる可能性にあることが分かりました。
- クリオネの食べ物が分かりました。二酸化炭素の排出量を減らす努力で海の生き物を守ることができると知りました。
- 海を身近に感じられてよかった。
- 身近な取り組みから二酸化炭素の排出量を減らせるように地道に努力していきたいと思った。
- 海からクリオネがいなくなると後々人間にも影響が出るので、海の保護のためにも二酸化炭素の排出量を減らさなければならない。
- 海の環境を守るためにいろいろと心がけたいと思った。
- 自分たちの行動が海洋生物を危険にしているので、二酸化炭素の排出量を抑えることで海を守ることができると感じた。
- 海は漠然と好きでしたが、さらに海について興味を持つことができ、身近に感じる事ができました。

3. 水族館で生まれた小さな生物の展示解説活動

【開催日時】2023年7月22日（土）～2024年3月31日（日）

【開催場所】浅虫水族館 おらほのめんこちゃんコーナー

【参加者数】4,500人

【活動内容・目的】

- ヒメタツ、フサギンボ、ミズクラゲ、アツモリウオ、コモンカスベなどの地元の海で採集され、水族館で繁殖した小さな生物を展示することにより来館者の注目を集め、海を学ぶ機会への入り口となることを目的としました。



会場の風景



展示生物 水族館生まれのヒメタツ



解説風景



給餌解説風景

来館者の目につきやすい特設会場で生命の尊さを感じるように小さな生物を小型水槽で展示。小さな生物たちの餌を食べる様子の観察や解説活動により、地元の海で採集され、水族館で繁殖した様々な生物の小さな命を感じていただいた。また、この小さな生物たちが成長すると館内の大きな水槽に移され、そこで新たな命が誕生し、生命が次世代へ繋がれていくことを目指していることを伝え、様々な生き物が生息する豊かな地元の海について考える機会を創出し、次世代に豊かな海を引き継ぐためにはどうすれば良いのかを考える場とし、理解を深めていただいた。

【参加者の声】

- 海は私たちが守らなければいけない。そのためにゴミを減らし、プラスチックを海に捨てないことも大切ということが分かった。レジ袋を使わないようにし、エコバックを使いたいです。
- 海の生物を大切にするための活動をする人たちがたくさんいて素晴らしいと思いました。また、海をきれいにする活動に参加してみようと思いました。
- 魚が生き残って大きく成長するのは大変だと思いました。
- 海をきれいにして命をつないでいきたい。
- 魚が人の手で育っていることを知って、自分も海を大事にしようと思った。
- 魚たちを大切に育てていることが分かり、水族館はすごいと思った。
- 魚は 1 年で少ししか成長しないので大変だと思った。
- ヒメタツやコモンカスベなど水族館生まれの魚たちを知ることができて良かった。
- なかなか見ることでできない魚の赤ちゃんたちがかわいかった。
- 卵の中で魚の赤ちゃんが動いているのを見られてよかった。
- コモンカスベの卵が透けて中の赤ちゃんが動いているのにびっくりした。
- コモンカスベの卵のように外敵から守って成長させていることに感動しました。
- 青森の魚をいろいろと学べて海の豊かさを改めて知った。
- 色々な幼魚が餌を食べているところを間近で見ることができて良かった。
- 幼魚の時から見ていたフサギンボは数多くの卵から生まれた中のたった 1 匹だけの生き残りを知ってびっくりした。
- 海の生き物の成長過程を知ることができた。
- 海の中でたくさんの生き物が大切に守られていることを知り、みんなの力で海の生き物を育てていくことの大切さを知りました。

【事業全体のまとめ】

来館者の目につきやすい特設コーナーで生命の尊さを感じるように小さな生物を小型水槽でまとめて展示することにより、来館者の注目を惹きつけ、関心を持ちやすい雰囲気をつくることができた。解説活動により、海洋の環境悪化などによって減少する漁獲量を補うために行われている地元の栽培漁業や養殖漁業の有用水産種を知り、「つくり育てる漁業」を知る場とすることができた。さらに「海に親しみ、海を知る」ための機会と次世代へ豊かな海を引き継ぐためにはどうすれば良いのかを考える機会を創出することができた。また、「未来へつなぐ大切な命」の展示コーナーとしての一体感もあり、常設化して本事業を継続して行うこととなった。

今後は、新年度に新たに種苗生産された同じ種を展示し、このコーナーで成長した個体は通常の展示水槽に移動して展示を継続し、そのサイクルをつくることによってSDGsに沿った海への負荷を少なくする展示を目指す。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所	栽培漁業や養殖漁業で生産される種苗種の提供を受け、「つくり育てる漁業」を紹介する場とした
2. 地方独立行政法人青森県産業技術センター内水面研究所	//
3. 公益社団法人青森県栽培漁業振興協会	//
4. 青森市水産振興センター	//

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日	
1. 青森テレビ わっち!! 生中継	開館40周年記念	2023年7月21日
2. 青森テレビ ニュース	開館40周年記念	2023年7月23日
3. 青森放送 ニュース	開館40周年記念	2023年7月24日
4. 青森放送 1550 ニュース-ダ- With	かすみの民謡はしご唄	2023年9月20日
5. NHK 青森放送局 あおもりもりもり	浅虫水族館から生中継	2023年10月28日
6. WEB 浅虫水族館ホームページ	スタッフブログ	2023年11月12日

以上